

どんな研究をしておられるか、2回生でも分かるように教えてください。

キーワードは触媒です。ある目的化合物を得たいときに触媒がうまく働くと、より温和な反応条件で、安全で安定な試薬を使って化合物を得ることができます。新たな人工触媒を作ること、低温でも選択的にロスなく進む反応やあまり廃棄物の出ないクリーンな反応を追求しています。

卒業生の進路先は、どのようなところが多いですか。

ほとんどの人は製薬会社の合成系への就職を第1希望にします。最近の製薬会社の求人数は減りつつあり、即戦力となるドクターが求められています。製薬の合成には、修士卒もいますが、博士卒で行く人が多いです。製薬会社の他にも化学メーカーなど色々な求人があります。

先生はどんな学生でしたか。

1、2回生は阪大ソフトボール部で外野を守っていました。レギュラーはなかなか取れなかったけれど、毎日がんばっていました。

早くから研究者を目指しておられたのですか。

実は元々ドクターに行くつもりはなくて、修士卒で就職しようと思っていました。いくつかの希望先を教授に伝えると「ここに行きなさい」と言われて。会社の面接と思って緊張しながら行ったのに知らない人が出てきて、どっかの部屋に連れて行かれて、ドクターに残るよう説得されただけで帰ってきました。これはだまされたな、と。しゃあないなと思って……まあ企業に行くこともできたんですけど……3年間でドクターをとりました。博士になってから、広い世界を見たいと思って1年間留学しました。日本に戻って相模中研(相模中央化学研究所)で研究しましたが、理工業の若い研究者たちが全国から集まっています、大きな経験になりました。当時の同期は今みんな教授になっています。

自分の描いた将来設計とは正反対の方向に行ったなとも思うけど、自分の頭だけで考えたって、たかが知れているやんなあ。勉強して知識をつけて自分で考えて、でも人の意見も聞いて、うまくミックスさせれば良いと思います。

20年前の京大薬学部生と現在の京大薬学部生を比べて、何が変わったところがありますか。

初めて准教授で来て教えたときは「凄い奴がおるな」と思ったけど、今は、あんまり感じへん……?私が慣れたんだと思います。

あとは、大人しくなってる。真面目で勉強熱心なのはええんやけど、ちょっと型にはまりすぎてるかも知れへんね。分野配分でGPSか何か(Grade Point Average:GPA)が要るのも原因なのか分かりませんが、ただ、我々が学生の時も先生にそう言われてたから、気にしなくていいのかも知れません。

先生から学生に対するメッセージをお願いします。

世界に目を向けてほしいな。京大にも凄い奴は一杯おるけど、世界にはもっと凄い奴もおるの。考え方も文化も違う人と関わることによって、日本を見つめなおすこともあるし。色んな所に知り合いをつくれれば面白いし、自分自身の幅が広がって新しいものが見えてくるかも知れません。しっかり勉強して、どの研究室に入ってもそこで一生懸命やってもらって、将来の……日本も支えてほしいけど……京大薬学部を支えてほしいなと思いますね。

薬品分子化学分野

<http://orgchem.pharm.kyoto-u.ac.jp/>

教授 竹本 佳司
准教授 中 寛史
助教 南條 毅
研究員 柳田 玲子
JSPS海外特別研究員

Abhijnan Ray Choudhury

博士課程3年 2名
博士課程2年 1名
博士課程1年 3名
修士課程2年 3名
修士課程1年 4名
学部5回生 1名
学部4回生 5名